

初等部

コロナ禍での初等部の生活

初等部部长 高橋出

全国一斉休校から始まった2020年度を経て、2021年度もコロナウィルスの感染状況と、政府方針、学校全体の方針を前提としてどのように初等部の教育をつくっていくか、試行錯誤の日々だった。2022年度は、徐々にウィルス特性の解明も進み、対面での学び、校外学習や宿泊学習の再開が叶い、食事についても、人数に制限はあったが食堂の使用が再開した。この2年間の初等部の生活を振り返る。

2021年は前年度よりは徐々に学校での生活を取り戻すことができ、22年度はよりいっそう従来の生活の再開が試みられるようになった。しかし、コロナ禍に入職した教員にとっては、たとえば全員が食堂に集っていた食事時間やそのための準備である高学年による食食用意など、イメージのしにくいものもある。また、初等部では1学年1クラスの少人数制をとっていることもあり、普段から全教員が全学年の子どもたちのことを把握することが自然と行われていたが、コロナ禍となりクラス単位での活動が生活の大部分を占めるようになったことで、礼拝や食事など、全員が集まることにまだ慣れない子ども、教師もいる。一つひとつの校舎が離れている分、特に低学年などは移動が大変な場合もあり、徐々に慣れていくことが必要とも思う。ただ、食事や礼拝など、すべてをコロナ禍前の形に戻すのではなく、よりよい形はないかを考えつつ過ごしている。

【基本時間・登校方法】

基本時間は、両年度とも8時10分の本鈴から変更はなかった。2020年度までは、公共交通機関の利用に不安のある家庭には車での送迎を許可していたが、21年度からは車での送迎は中止した。登校時間については、公共交通機関を利用する児童もいることを鑑み、感染者数が増加すると分散登校(3学年ずつ時間をずらす)を行った。具体的には2021年9月の始業式から10月1日までは分散登校とした。なお、2019年5月の神奈川県での小学校殺傷事件後から始めた正門での教員による登校時の警備は21年、22年も継続した。

【礼拝】

礼拝については、両年度とも基本的には組礼拝をおこな

い、司会は担任・副担任が担当した。月に1度の誕生日会ではZoomを利用し、教室で全校礼拝を行った。また、同年12月21日のクリスマス礼拝では、久しぶりに体育館に全員が集まって行うことができ、後藤田典子先生にクリスマスのお話をしていただいた。2022年度からは、誕生日会、学園長の礼拝など、月3~4回は体育館に全員が集って礼拝をもつようになった。週の初めに教師が交代で聖書物語の絵本を読んだ。また、22年度もクリスマス礼拝は体育館で、対面で行った。

2021年度、22年度共に、聖書について学ぶ教師の勉強会を、後藤田先生を講師に迎えて行った。組礼拝の司会も後藤田先生に担当して頂く機会をもち、教師もキリスト教について学ぶ時間を持てたことはよかった。

【授業】

2021年度は特に、コロナ禍により「学校とは」「学習とは」と問われ続けた1年だった。学びの保証のためにZoomや録画配信なども利用した。コロナ禍ではあったが、「学びの発表会」を体育館で開催した(「2021年度「学びの発表会」について」参照)。

2022年度はコロナ禍の制限が緩くなり、授業内容をコロナ前の形に戻しつつも、新しい学習の形を模索している。一斉・グループ・個別・教室外など、従来初等部で行ってきた授業形態だけにとどまらず、自由進度・縦割り・発表・探究など、自ら学ぶ力がつくような環境をつくる努力をしている。教師研修としては、成田喜一郎先生はじめ、講師の先生を招いて、9回の研修を行った。

【行事・校外学習・宿泊学習】

2021年度の遠足は、5月7日、校内で実施した。縦割り

の班(家族)ごとに、大芝生、男子部グラウンド、初等部グラウンドで活動した。2022年度は6月8日に全校で城ヶ島(神奈川県三浦半島)に行った。3年ぶりの学外遠足となった。また、運動会は2022年6月2日に3年ぶりに開催した(「多くの来場者と共に」同730号2022年6月30日)。

宿泊学習については、2022年度より再開した。3年生は清里、清泉寮(10月26～28日)、4年生も清里・清泉寮(1月25～27日)、5年生は三浦YMCAグローバル・エコ・ヴァレッジ(神奈川県三浦半島 6月15～17日)、6年生は箱根(10月24～26日)で行った。コロナ禍前は、4、5年生は黒姫のラボランドへ行っていたが、遠方であること等から場所を検討していた。そこで、清里を検討し、2022年度からは清泉寮を活動場所とした。5年生は長く蓼科ポニー牧場へ行っていたが、三浦YMCAへ行くことにした。ここは施設の目の前に海があるので、50年以上続いていた3、4年生貝の勉強(逗子海岸)に代わって貝ひろい、磯採集のプログラムを入れることとした。6年生は、以前と変わらず箱根としたが、宿泊のためにお借りしていた成蹊学園の寮がコロナ禍で使用が難しいため、御殿場YMCAへ変更した。

自由学園は机上の勉強だけでなく、校外学習なども大切にしており、そこに魅力を感じて入学させた保護者も多い。数年中断があったが、2022年度より再開することができてよかった。

【保護者会】

当初はオンラインで行い、徐々に記念講堂で、対面での形に移行した。個人面談はパーテーションを用いた。保護者の行事参加や授業参観も人数制限等の条件はあったものの、対面で開催することができた。

【食事】

コロナ禍以降、保護者と試行錯誤の結果、お弁当箱を導入し、保護者がお弁当箱を教室に運び、子ども達は教室で食事ができるようになった。2020年9月より、食堂での2学年の食事を開始した(4学年は教室)。お食事は①家庭弁当 ②学校で作る学校食事 ③お弁当業者に頼んだ学校弁当の3パターンとした。2021年度も食堂での2学年食事は継続、上記③は終了とした。学校食事の日は保護者(ファミリースタッフ)による調理が行われた。児童のカトラリーと水筒は各自持参した。なお、全国的にコロナウィルスの感染拡大のあった2021年

9、10月の分散登校中は家庭弁当とした。3学期からはほぼ全ての曜日が学校食事となった。2022年度も同様の形をとった。

【広報】

学校説明会は、2021年、2022年ともハイブリッドで開催した。21年には、新年長向けの説明会を例年より3ヶ月ほど早く、2月にハイブリッドで開催した。22年度には新しい試みとして、6年生が主体となって広報担当者と相談しながら説明会をつくった。